



第1回 シベリア環境政策ワークショップ

第一部 グローバル COE の取り組みから環境政策提言に向けて

【IFES-GCOE の概要】

杉本敦子 IFES-GCOE サブリーダー：シベリアにおける凍土研究

岩花 剛 IFES-GCOE 特任助教：シベリア・サマースクールの紹介

山下哲平 IFES-GCOE 特任助教：政策 TF のアプローチ

【境界 GCOE からの提案】

平山陽洋「境界研究の拠点形成」GCOE プロジェクト研究員

宮本万里「境界研究の拠点形成」GCOE プロジェクト研究員

第二部 《ロシアの社会経済概要》

欧亜総合研究所代表 杉本侃氏

第1部 【IFES-GCOE の概要】



第1 報告

IFES-GCOE の紹介およびシベリアにおける凍土研究についての報告

シベリアを観測拠点とした調査・研究活動について、特に注目している環境問題や生態系システムについての概要説明を行った。さらに、IFES-GCOE の「100 年観測網」の構築に言及し、人材育成を含めた幅広いプログラムのアウトプットを示唆。

左：〔杉本敦子 IFES-GCOE サブリーダー〕



第2 報告

IFES-GCOE シベリアサマースクールの概要

2009 年 8 月 1 日～8 月 7 日に実施された [2009IFES-GCOE Field Science Short Course at Yakutsk, Russia] のコースの概要と結果について、写真やアンケート結果等を用いて説明。

左：〔岩花剛 GCOE 特任助教〕



第3 報告

IFES-GCOE 政策 TF アプローチ

シベリアにおける IFES-GCOE の政策提言の方針として、「観測データベースの構築やこれに基づく統合モデルといった情報ツールの運用能力を軸とする「環境情報リテラシー」の向上をキーワードを挙げ、係る活動計画について説明。

左：〔山下哲平 GCOE 特任助教〕

【境界 GCOE からの提案】

GCOE「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」の概略

「境界」研究の独自性や取り組みについて、研究・教育・国際協力・政策提言・社会還元の各分野について説明。また、文系諸学の研究基盤から狙う「実態研究」と「表象研究」の方向性についての説明があった。



上：〔平山陽洋「境界研究の拠点形成」GCOE プロジェクト研究員〕

個別研究分野からの提案

ベトナム政治史の立場から国家ごとの政治体制、政治戦略が環境政策を規定する現実に対する再評価、また、人文学の視点から環境問題の担い手の役割と関係（特に確執）理解について提案があった。

個別研究分野からの提案

政治学、政治人類学、環境社会学、南アジア地域研究の広い視点から、各地域に居住する人々の生活の立場に立った「よりよく生きる」ことをキーワードとする環境援助の在り方について提案。

同氏の調査フィールドであるブータンの固有性に学ぶ生活スタイルや環境政策の様々な可能性について、お仕着せでない環境保護のアプローチを示唆。



上：〔宮本万里「境界研究の拠点形成」GCOE プロジェクト研究員〕

境界 GCOE でもサマースクールの計画があるとのこと。係る意見交換を行い、参考として、できたてのポスター（環境 GCOE@モンゴル）を紹介（右下：宮崎真 GCOE 特任助教）。



第2部 《ロシアの社会経済概要》



欧亜総合研究所代表 杉本侃氏

ソ連時代より現在に至るまで、同国におけるエネルギー問題を中心に、社会経済、日ロ貿易、政治に至るまで幅広く研究を続けている。実務的なセンスから見る日ロ関係の分析で日本の第一人者たる経歴、分析眼の持ち主である。

研究会では、統計データを踏まえたロシア（全体）の経済情勢から予測、また極東ロシアの経済分析に始まり、日ロ貿易やロシアの政治分析に至るまで、幅広い視座でロシアの社会経済概要を解説。特に、1960年代より40年にも亘る現地調査の経験は、他では得られない貴重な情報であった。

同氏からは、GCOEの問題意識や活動、政策提言を含む今後の展開について、コメントを得ることができた。また、GCOEにおけるロシア・シベリア研究における助言役として、引き続きお付き合い頂けることになった。

